慶応SFC 高い自由度

慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）の卒業生が、ビジネスの手法を通じて社会問題の解決を目指す社会起業家として活躍の場を広げている。社会起業家になるまでの歩みを聞くと、学生に主体的な学びを促す独自の教育が影響したとの声が多い。大学改革の先駆的存在ともいわれるSFCが社会起業家を輩出してきた要因を実例をもとに探った。

主体性、社会起業家育む

2011年3月に東日本大震災が発生して間もなく、宮城県女川町で被災地の高校生向けの教育支援事業を本格化したNPO法人がある。SFCの卒業生、今村久美さん（34）が設立したカタリバだ。今村さんが目指すのは「高校生のころから社会人と交流する機会をつくることで将来のキャリア意識を目覚めさせる」ことだ。

写真が好きな女子高校生には写真集の作成を手伝い、交流サイト（SNS）の「フェイスブック」で世界に公開。情報発信を支援した。「被災地」ではなく「星がきれいな町」とのイメージを訴えたいという別の高校生には、インターネットを通じて広く一般から資金を募る「クラウドファンディング」の手法を用いて望遠鏡の購入資金を集めることを後押しした。

今村さんは01年、SFC在学中から主に高校生を対象とした教育支援事業を立ち上げた経験を持つ。在学中に教育論について学んだわけではない。ただ、必修科目が他の大学に比べて少なく、「学生が自らの目的に合わせてカリキュラムを組める自由度が高く、教員が密な指導をする」教育に強い刺激を受けた。

SFCの教育の特徴を今村さんは「大人である教員が学生に刺激を与え、学生が学びたいことを学べる文化」と表現する。在学中に教育支援事業を始めたのは「SFCで自分が刺激を受けた文化を社会にも伝えたいと考えたから」という。これまでカタリバが教育支援を手掛けた高校生らは10万人以上にのぼる。

SFC在学中にカタリバを設立した今村さん㊨は被災地に活動拠点を移した

必修少なく、自分で選択

病児保育サービスを提供するNPO法人、フローレンスを04年に設立した駒崎弘樹さん（34）は、SFC卒業生で社会起業家となった代表例ともいえる存在だ。フローレンスは風邪を引いた子どもを保育園に代わって一時的に預かる病児保育サービスを展開。事業の傍ら、働く親を支援したり待機児童を解消したりする必要性をアピールする活動にも取り組む。

駒崎さんはSFC在学中に後輩とIT（情報技術）ベンチャーを設立。そこでSFCで学んだ経営学を実践する日々を送った。学生起業家となる背中を押したのは「自分で主体的に何かをしなければ軽蔑すらされるSFCの雰囲気」と説明する。今村さんと同様、カリキュラムを主体的に組み立てられるなど自由な教育が目的意識を高めた。

慶応SFCの概要

開設	1990年4月
学部	総合政策、環境情報、看護医療
専任教員数	122人
学生数	4350人
卒業生数	1万7453人
教育制度の特徴	日本初のAO入試の導入
	専門領域の壁を取り払った学部の設置
	学生による授業評価制度
	必修科目を減らし、学生の選択肢を拡大

（注）専任教員・学生数は2012年5月、卒業生数は同1月時点

専門外は「他者を頼る」

SFCは1990年の開設で、面接や書類選考中心の「AO入試」を日本で初めて導入するなど大学改革の先駆的な存在といわれる。必修科目を少なくして学生が自ら課題を設定し、学問領域にこだわらずに横断的に学べる仕組みも特徴。IT分野を中心に世界の若手研究者や企業経営者を教員として迎え入れてきた。

そうした教育環境の中から、なぜ社会起業家となる人材が目立つのか。

開設当初からSFC運営に携わる村井純・環境情報学部長は「学生が『何か今までにないことをやってやろう』という気分になりやすい風土が育った」という。自分の専門分野以外のことは他者の意見を尊重する必要があることを学び、よい意味で「他者を頼る」ようになるという。

学部間の垣根低く

最近はSFCの成果を横目で見ながら入試などを見直す大学が増え、先進性が薄れたとの指摘もある。だが、社会起業家となった卒業生が相次いでいるという点では今、SFCは人材育成の収穫期にあるともいえる。

卒業後にITベンチャーから社会起業家に転じたのは、企業経営に携わるうち「もっと社会の課題を解決する仕事をし、時代をつくりたい」との思いからだ。01年のITバブル崩壊で、多くのIT起業家たちが没落するのを目の当たりにしたことも影響した。

オンライン英会話事業を通じてフィリピンの貧困問題解決を目指すワークワーク・イングリッシュ（東京・渋谷）社長の山田貴子さん（28）もSFC卒業生。同社は無料通話サービスのスカイプを使ったオンライン英会話教室を提供し、講師はフィリピン在住の現地人を活用する。

社会起業家は米国などで先行して普及した概念。日本では東日本大震災後、社会起業家の被災地支援活動を機に、脚光を浴びるようになった。

SFCはこれまで、クックパッド創業者の佐野陽光氏などIT分野で多くの人材を生みだしてきた。その基盤の上に、ここ数年の社会貢献意識の高まりが合わさって、ITを活用して支援の輪を広げる社会起業家を輩出するようになったのだ。

卒業生に社会起業家が多いことにSFC自体も着目。4年前から今村さんら卒業生を講師として招き、ソーシャルビジネスの講座を開いている。震災後、社会起業家を志してSFCの門をたたく学生も増えているという。先輩たちの「生の声」が、新たな起業家を育む好循環を生んでいる。

就活の関連情報はこちらへ　大学面では就職活動中の大学生の疑問や不安にこたえる記事を掲載しています。関連情報を電子メール、daigaku@nikkei.co.jpへお寄せください。